

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5年 2月 28日

事業所名 エル放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	2			
	②	職員の配置数は適切である	5	4			お子様の数に合わせてスタッフの数を決めているがお子様がお休みになった場合などはスタッフ数が増える場合がある。スタッフの数が少ないところは今後スタッフに聞取りを行い調整を行う
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	2			スロープはあるものの段差ができてしまうところがあるので早急に改善する
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	2	6	1		利用児童の個別支援計画及び評価の仕方などを十分にスタッフに周知できていなかった部分もあるのでスタッフ全員でPDCAサイクルを回していけるよう徹底していく。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	4	1	新規開所の為 今回が初めての 評価となります。	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	3	1	第一回目の公表をHPで行ない ます。	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2	2	新規開所の為 今後検討予定 です。	
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2	1	5		開設1年目というところもあり、部分的に研修を行えたところもあるが、しっかりと研修を行うことはできていない。2年目はスタッフの意見も取り入れながら計画通りに研修を行っていく。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	2			
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	4	1		
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	5	1		昨年12月より児童発達支援管理責任者を中心に月に1回から2回程度「療育会議」を設けるようになったので継続して行っていく。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	4			児童発達支援管理責任者を中心に保育士、児童指導員で活動のプログラムを考え実施している。以後を継続して行う。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	5			
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	2	2		スタッフの中にはまだ計画書を見ていないスタッフがいるということがわかったので、全員が計画を把握し、利用児童の支援に携わってもらえるようにしていく
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	4	3	2		平日は利用児童がくる前に打合せを行っているが、長期休暇の場合、打合せを取れる時間の確保が難しいところがあり、特変などがある場合は職員に管理者や児童発達支援管理責任者から伝えてもらうなどの対応をしている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	1			
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	1			

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	6			
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	2	6	1		ガイドラインを読めていないスタッフ(特に非常勤スタッフ)がいるので、まずはそこから始めてガイドラインの内容を把握してもらい支援を行ってもらえるようにする
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	3	1		
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	4			
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	1	2		医師の指示書に従って医療ケアを行なっています。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	4	2		保護者より情報を頂いています。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		3	4		対象者がいません。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	3	3		新1年生に関しては、専門の方と連絡、相談を取りながら受入れの準備を行っているが、就学後はなかなか連絡や相談する機会がないので、連携を強くしていきたい。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	1	6		コロナ禍の為にできていません。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	4	3		コロナ禍の為にできていません。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	3			
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4	4		今後、保護者様のニーズの聞き取りを行い行っていく予定です。
保護者への説明責任等	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	3			
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	4			常勤で在職する管理者、児童発達支援管理責任者、看護師はそういった機会もあり、保護者の方をお話する機会がある。
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	1	7		コロナ禍の為にできていません。
	㉓	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	3			
	㉔	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	1	1		
	㉕	個人情報に十分注意している	9	1			
	㉖	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	2			
	㉗	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4	4		コロナ禍の為にできていません。

非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2	3	スタッフ全員(特に非常勤のスタッフ)にはしっかりと周知できていないところがあるので早急に周知を行っていく。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	2	3	スタッフ全員(特に非常勤のスタッフ)にはしっかりと周知できていないところがあるので早急に周知を行っていく。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	2	4	研修という形ではまだ十分に行えていないので、次年度からしっかりと全職員の研修として実施する。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		6	1	重症心身障害児の場合、車椅子に乗る際にベルトをつけることが当たり前という認識でいるため、「何のためにやるのか」という説明をしっかりと行えていない部分があるので、今後は丁寧にスタッフに伝えていく。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	3		
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	1	1	

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。